

日時:令和 7 年10月15日(水)13 時～

場所:京葉ガスビル 5 階会議室

令和 7 年度 第2回 松戸市総合教育会議 次 第

1 開会

2 議事

議題 1 松戸市教育大綱の基本理念について

3 その他

4 閉会

令和7年度第2回 松戸市総合教育会議 出席者一覧

○松戸市総合教育会議 委員

松戸 隆政	市長
波田 寿一	教育長
武田 司	教育委員
伊藤 誠	教育委員
山形 照恵	教育委員
中西 茂	教育委員
和座 一弘	教育委員

○陪席者（総合教育会議連絡調整会議構成員を兼ねる）

伊東 朱美	総合政策部長
村上 陽子	生涯学習部長
中坂 正夫	学校教育部長
町山 信之	学校教育部審議監
渡邊 剛史	総合政策部 政策推進課長
三根 秀洋	生涯学習部 教育総務課長

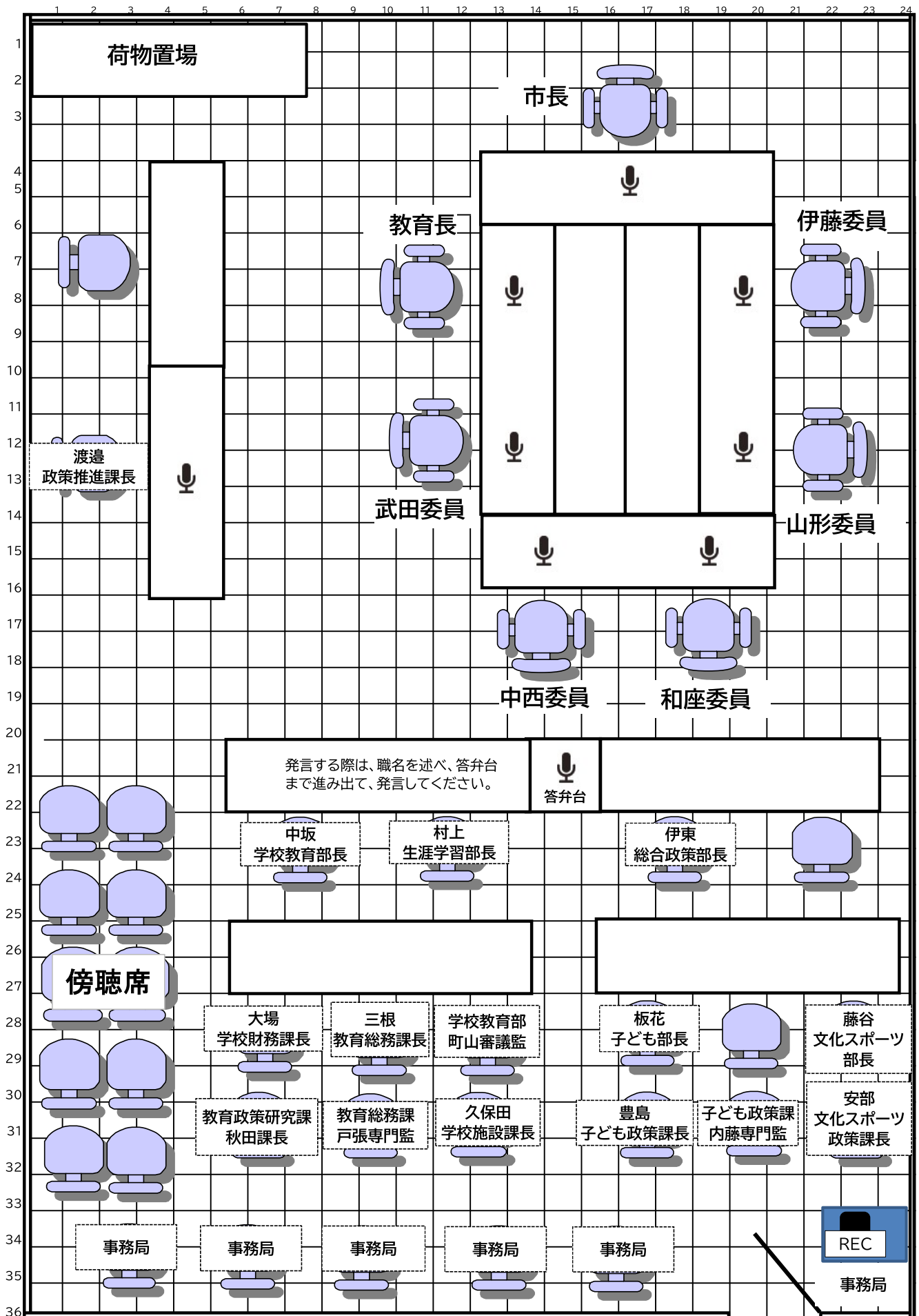
○関係部出席者

板花 克	子ども部長
藤谷 隆	文化スポーツ部長
豊島 美潮	子ども部 子ども政策課長
内藤 秀明	子ども部 子ども政策課 専門監
安部 豪	文化スポーツ部 文化スポーツ政策課長
秋田 敦子	生涯学習部 教育政策研究課長
久保田 昭彦	学校教育部 学校施設課長
大場 慶育	学校教育部 学校財務課長
戸張 徳一	生涯学習部 教育総務課 専門監

○事務局

市長事務局	政策推進課
教育委員会	教育総務課

令和7年度 第2回 松戸市総合教育会議 席次



○基本理念

みんなで育てる みんなが育つ 松戸の未来

松戸市は、すべての市民が、生涯を通じ学ぶよこびを感じられ、未来に向かって成長できるように支援します。
 そのために、松戸市は、市民・地域社会・学校・行政のそれぞれが、互いに助け合って、一人一人が孤立することなく、将来にわたってともに学び合い、互いを育めるような環境をつくります。
 そして、学びから、変化し続ける社会に対応し、より広い世界へ自ら飛躍していく力を育み、みんなで松戸の未来を創ります。

○基本理念を支える4つの柱

1 松戸に育つ子どもたちが可能性にチャレンジする力を育みます

- 子どもたちが主体的にそれぞれの能力や個性を伸ばせるようにICTの効果的な活用を含めた教育環境をつくります。
- 子どもたちが自らの将来に目標を持ち、その実現に向けてチャレンジするための「確かな学力、豊かな心、健やかな体の知・徳・体のバランスのとれた力(生きる力)」を育みます。
- 子どもたちが自己肯定感を育み、社会的に自立し、多様な人々と協働しながら創造的に生きていく基礎を養います。
- 子どもたちが本来持っている能力や個性を伸ばすことによって、今後ますますグローバル化し、変化し続ける社会の中で活躍し、持続可能な社会の担い手となる人材を育成します。

2 松戸で子どもを教育したいと思える環境をつくります

- 市民みんなで子どもの成長を支え、質の高い教育が受けられる環境を整備します。
- 子どもたちが安全に安心して学ぶことができるように、家庭での教育を支援するとともに、学校・地域社会が一緒に子どもの成長を支援できる体制を整えます。
- すべての子どもたちが孤立することなく健やかに成長できるように、子どもの権利が尊重される地域社会(こどもまんなか社会)をつくり、乳幼児期から子どもの成長に応じた切れ目のない教育が受けられるようにします。

3 市民みんながいつまでも元気に学び続け、生きがいを持ち続けられるようにします

- 高齢者も障害のある人も市民みんなが、継続して学習やスポーツ運動ができる環境をつくります。
- 生涯にわたって学習活動やスポーツ、趣味など運動を楽しみながら、自ら学び、学び合える「人と人がつながるまち」を目指します。
- 市内大学との連携や社会教育施設の充実を図り、生涯学習機会の提供に努めます。
- 市民が身に付けた知識や経験を活かして、地域の課題を自らの力で解決していけるよう支援します。

4 文化とスポーツで松戸の魅力・価値を高めます
松戸の歴史・文化を保存・活用するとともに、多様な文化に触れる環境を整えます

- 文化やスポーツの活動をする人たちが活躍できるように、文化やスポーツの振興を図り、多様性が尊重され可能性を発揮できる環境を整えます。
- 多様な文化芸術活動を通して、国際的な広い視野で文化を創造できる環境を整えます。
- 松戸の歴史文化を保護・継承し、楽しみながら学ぶ学習することで、松戸に誇りと愛着を持つ心を育てます。

参考

○柱に紐づく主な施策(市全体)

- 家庭教育支援の充実
 - 小中学生の学力向上(言語教育、教育DX)
 - 特別支援教育、不登校支援、いじめの防止対策の充実
 - 部活動の地域展開の推進
 - 放課後の子どもたちの学習環境整備
 - 高校教育の充実
 - 児童虐待への対応
 - 幼児教育の推進
- 学校施設の改善(バリアフリー化、トイレの洋式化、冷房化)
 - 地域の居場所づくり(こども食堂、まつどDEつながるステーション)
 - 子育て支援の充実(保護者の負担軽減)
 - 子育て家庭への経済的支援の充実
 - 学校保健・体育・食育の充実
 - 教育と福祉・医療の連携推進(スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーの配置)
 - 特色ある学校づくり
- 文化・芸術・学びの拠点の再整備(図書館機能の拡充)
 - 人生100年時代を見据えた生涯学習の推進
 - 青少年講座、成人講座等の多様な学習・運動機会の提供
 - 市民活動団体の活動支援
 - 地域に役立つ人材の育成
 - 文化施設やスポーツ施設の環境整備
 - 市民の文化、スポーツ活動の振興
 - スポーツ交流の推進
- 松戸の歴史・文化の保存と親しむ機会の確保
 - 若者が共感できる新たな文化活動の支援
 - 多文化共生の推進
 - シティプロモーション
 - ふるさと納税

○施策の推進にあたって

市長部局と教育委員会の一層の連携や、組織横断的な取組みを推進する

No.	発言者	発言内容(要旨)
1 福祉の視点		
1	市長	親の経済格差が教育や様々な体験格差にも繋がり、学校現場ではデジタル化の推進など、様々な変化が起こっている中で、こどもが誰1人取り残されず、みんなが夢を持って成長できるような教育環境を整備する必要がある。
2	市長	親の経済格差が子供の体験格差につながるということが言われる中で、体験格差をできる限り縮めて、すべての子供がチャンスに恵まれるようにという思いで、福祉の視点を入れなければいけないと思う。
3	市長	この3つの視点(福祉の視点、教育環境の視点、新しい文化・スポーツの視点)は、私の思いと、こどもまんなか社会の実現のように、国の動向を踏まえたものである。
4	伊藤委員	こどもまんなか社会のように新しいフレーズを取り入れて、もっと重点的に子供のことを考えていろいろな政策を打ち出していくことは大賛成。
5	和座委員	福祉の視点の中のこどもの権利を保障するについて、生きる人権、成長する人権、守られる人権、参加する人権と4つの人権がある。子どもが意見を言って施策に関与できるような、参加する人権が、不登校の子など自己肯定感の低い子が自己肯定感を高めるのに重要。
6	中西委員	福祉の視点では、子どもの意見をどのように、どれだけ聞くかという視点が重要。
7	山形委員	子育て支援が良いから松戸に引っ越してきた親子が、教育に目を向けると外に出ていく。福祉の視点は5番目の柱にしても良いくらい重要。福祉という言葉には様々な意味があるので、子どもの権利を柱にしていけるのが良いのではないかな。
8	山形委員	不登校の子が1,000人を超えている。誰一人取り残さないという福祉の視点が大綱に入ることは大切だ。
9	市長	子どもが自己肯定感を高めながら、幸せに生きられるように、福祉の視点を入れる必要がある。
10	和座委員	子どもが自己肯定感を高めるには、いろいろな形で参加ができることが重要だと言われている。子どもの参加する権利があるが、自分で考えたことでこのように変わったということで自信がつく。
11	波田教育長	和座委員が言う「子どもの人権」の視点、山形委員が言う「子どもの幸せ感」はどういうことなのかという視点、部活動の話も根底から見直していくということも含めて、様々な部分について、視野に入れながら、素案づくりをしてほしい。

No.	発言者	発言内容(要旨)
2 教育環境の視点		
12	市長	教育環境の視点で言えば、今、学校は体育館も含めて老朽化が進んでいる。快適に学べる環境とともに、デジタル化も整えていかなければいけない。
13	伊藤委員	老朽化した施設の改修は当然のことだが、市民向けにさらに力を入れてやりますよということであれば、問題ない。
14	市長	教育環境について、少子化が進む中、学校の再編も含めて、そして国からも新たな教育の形が示されている状況で、これまでの学校の施設を少しずつ変えていかなきゃいけない。それを踏まえて、新しいデジタルも含めた教育環境の整備がこれから必要になる
15	中西委員	教育環境の視点で、デジタル社会とどう向き合うかが重要である。言語活用科にデジタル化の視点を入れる必要がある。
16	市長	教育環境の視点で、デジタル社会とどう向き合うか、言語活用科とも関連するということはそのとおりだと思う。教育環境の視点では、冷房が効いたところで運動できるような環境整備も大事。
17	山形委員	学習環境の整備について、ハードだけでなくソフトも盛り込んでほしい。
18	市長	教育環境について、ハードだけでなくソフト面の整備もしなければならない。
19	武田委員	快適な学習環境について、現行の教育大綱になってから変わったことといえば、タブレットを1人1台配ったことである。
20	波田教育長	教育環境の視点で、快適な教育環境というのは、単に空調を入れるとか、タブレットを渡すとか、ハードの話だけではなくて、質の部分、ソフトの部分も含めての環境なので、快適という言葉よりもっと良い言葉が当てはまるのかもしれない。

No.	発言者	発言内容(要旨)
3 新しい文化・スポーツの視点		
21	市長	多様なスポーツが生まれている中で、文化も、ダンスやVtuberなど新しい価値観が若者の中で出てきている。そのような個性や思いを教育の中でも拾い上げていくことが大事だ。
22	伊藤委員	新しい文化スポーツが、市民にどれほど受け入れられるのか、私も含めて疑問である。eスポーツはスポーツではないと思うが、市民がスポーツだというなら反対はしない。既存のスポーツよりもむしろ新しいスポーツに力を入れようと方向転換するなら、大きな柱の中に入れて良いが、そこまででないなら私はネガティブな感じを持っている。
23	市長	新しい文化スポーツについては、野球とかサッカーとか既存のスポーツや、旧来からある文化を否定するわけではない。ベースとなる文化スポーツを支援しつつ、若者のダンスとか、学校では部活がないものについても支えても良いかなと思った。
24	和座委員	健康のポイントは、食事と運動。運動のため、多くの人は歩いている。できるだけ魅力的に、皆さんがこのまちの中を歩き回ることができるような環境をつくることは、あまりお金をかけなくてもできると思う。そのための道路整備について書いてほしい。
25	市長	自己肯定感を高めることは大事。今までは、勉強ができるか、特定のスポーツができるかで、学校での評価は決まっていた。しかし、例えば新しい文化スポーツとして、ダンス、絵、eスポーツ、漫画、アニメなどの分野で活躍できるチャンスを作りたい。それが自己肯定感に繋がっていくと思うので、新しい文化スポーツを入れたい。
26	中西委員	新しい文化スポーツの視点では、部活動の地域移行が大事。地域と連携すれば幅を広げられるジャンルもある。
27	市長	部活動が地域移行しても、お金がないから参加できない子どもが実際にいる。体験格差、教育格差を何とかしなければいけない。新しい文化スポーツの視点では、部活動の地域移行が大事。教育現場だけで完結できない。民間の方々の力を活用して子どもたちを支える必要がある。
28	山形委員	eスポーツについて、デジタルコンテンツを開発している企業は松戸にいくつかあり、松戸の強みである。eスポーツの経済効果は大きい。なかなか外に出られない子がオンラインを通じて友達になったり、オフ会で外に出るきっかけになったりする。
29	市長	eスポーツに関していろいろな意見があって良いと思う。eスポーツで活躍する子を支援するのも自己肯定感を高めることにつながるので良いと思う。

No.	発言者	発言内容(要旨)
30	武田委員	文化の視点で、松戸の魅力と価値を高めますという部分をどうしたら良いか迷う。松戸は京都や金沢とは違う。首都圏なので人口の流出、流入があって当たり前。幸福感のある体験をした親は、子供にも経験させたいと思う。そのときだけ、流入人口が増えることに大いに価値があり、それが文化だ。松戸の音楽フェスティバルは有効に活用されている。市内の飲食店界隈で開催して3年くらいになるが、音楽に関わっている人が前向きに活動している。部活動の地域移行は、協力してくれる民間企業がないとなかなか進まない。教員の一部には、自分が部活動で得た幸福体験を、子どもにプレゼントしたいと思い、部活動の顧問になっている人もいる。レギュラーになれずに3年間部活動を続けた子にインタビューすると、毎日遅刻しないで前向きに頑張っていて、新しい友達ができるとか、人のために頑張れるとか、ありがとうと言われたことに幸福感を感じるという答えが返ってくる。日本人特有の利他の精神があるから、部活動は成立していると主張する研究者もいる。子どもは、信頼できる大人を選ぶ。学級担任でなくても、頼れる大人として、部活動の顧問や保健室の先生が選ばれることがある。部活動の地域移行により、そういう機会を一度減らしてしまうと、元に戻せない。丁寧に進めるべき。
31	伊藤委員	文化とスポーツで松戸の魅力価値を高めますというのは、完全にまちづくりの一環である。市民みんなが、文化とスポーツに気軽に取り組める環境を作ります、というように直してもらいたい。松戸の歴史文化を保護継承して学習するってことが大事なのですけども、その結果、松戸に誇りと愛着を持つ心を育てますというのは何かいかにも押し売りのである。子供時代を過ごせば、愛着心、郷土愛は自然と生まれる。松戸の歴史と文化を教えればよい。

No.	発言者	発言内容(要旨)
4 その他		
32	市長	子どもが夢を持って成長できるような環境を整備するには、教育委員会だけではなく、福祉部門や文化スポーツ部門など、様々な部門がオール松戸で取り組んでいく必要がある。現在の大綱の4つの柱は、教育の基本であり、大事な視点だと思っている(①グローバル社会の中で活躍できる人材の育成、②特色ある学校づくり、③地域で活躍する人材の育成、④松戸の地元愛の醸成)。
33	市長	歩きやすいまちづくりは、公約に書いている。松戸は、自然もあれば歴史的な資産もある。そのようなものを活用しながら、歩道の整備や、疲れたらベンチで休めるようなまちづくりをしなければいけない。
34	和座委員	子どもたちは、学歴や偏差値などによって評価され、プレッシャーを感じている。評価軸は1つではなく、たくさんあったほうが良い。松戸の言語活用科は、自分の考えを人にわかるように説明する力を身に付けるのに効果的である。社会に出ると、他者との関係の中で、相手の気持ちを理解して、自分の気持ちを伝え、グループの中でどうチームワークよく活動していくかが大事である。
35	波田教育長	端的にわかりやすく表現することが、これからの時代を生きていく子どもたちに必要だろう。言語活用科はそのような考えから、文部科学省の特例認定を受けて松戸市独自でスタートした教科である。必要性が高ければ、授業時間を増やしたり、中身を変えたりすることもある。
36	市長	現在、タブレットを使っているが本当に効果があるのか、どういうコンテンツが教育に適しているのか、言語活用をどう取り入れるのか、デジタルとどう向き合うか検討が必要である。
37	山形委員	こどもは何歳までかという議論も必要。子育て支援でいえば、母親のお腹の中にいるときからである。日本全体で高校生の自殺率が上がっている。松戸市は10代の若者の居場所づくりなどの若者支援が弱いのではないか。プレコンセプションケア(妊娠前の健康管理)についての考えを聞きたい。
38	市長	子ども食堂について、松戸市は近隣自治体の中で力を入れているが、不足している部分もある。例えば、おじいちゃん、おばあちゃんが相談役になって若者の話を聞くとか、支援も時代とともに柔軟にならないといけない。
39	和座委員	10～40代の死因のトップは自殺である。日本では、こどもを含め、自己肯定感が低い人が多い。OECDでこどもの幸福感について、不幸だと言っている国のトップは日本である。医学的には乳幼児死亡率の低さでは世界のトップである。1つの判断基準で人を評価するのではなく、できるだけ多くの視点で評価する必要がある。子どもは、感受性が鋭いから、学力で差別されていると感じると辛い思いをする。国連の児童虐待委員会が、1つのものの価値観、特に学歴社会が強すぎて、子供たちに非常に悪い影響を与えているので是正するように言っている。

No.	発言者	発言内容(要旨)
40	武田委員	加速度的な教員不足は解消できない。こどもを増やしたいと簡単に言うが、環境が整っていないところにこどもを連れて学びに住みにこようなんて思わない。デジタルとどう向き合って、新しい教育環境を作っていくかはこれからしっかり取り組まなければならない課題だと思う。1つの科目の授業をチームで研究し、コンテンツ化して、振り返りはコンテンツを見て、フォローアップまでできるようにすると良い。教員のモチベーションを高めるには、体を疲れさせないで頑張ってもらう環境を提供することが大事だと思う。
41	波田教育長	教育大綱の言葉を整理すべき。基本理念の「みんなで育てる みんなが育つ 松戸の未来」について、みんなという意味合いがどういう「みんな」なのか。あるいは、「で」、「が」、がどういう意味なのか。案として考えていったとき、この文言がベストあれば構わないが、いろいろな意見の中でその辺りの言葉を少し変えていくべきと感じた。今回の3つの視点でも、共通のキーワードは、間違いなく環境だと思う。
42	波田教育長	環境は人が作る。私たちが掲げるこの大綱は、まさに私たちが作る環境であるべきだ。
43	波田教育長	言語活用科の目指すものは、子どもたちが人にわかりやすく伝えることができるようになることである。ロジカルシンキングの部分で、ただ伝えるんじゃなくてわかりやすく伝える。クリティカルシンキングの部分で相手の伝えようとしてることを理解する。言葉を使って子どものコミュニケーション能力を高める。グローバル社会で活躍できる子どもの環境をいかに作るかだと思う。学校教育以外でも、生涯学習や社会教育の範疇も含めて、松戸市民をみんなで育てるのか、みんなが育っていくのかと、その辺のところを含めながら、環境というキーワードで、ぜひ素案づくりに取り組んでいただきたい。
44	伊藤委員	教育大綱には、松戸に住む人たちにいかにすばらしい教育環境を提供するかを書くべき。松戸のまちづくりが表に出てくると、本来の教育大綱ではなくなってしまうと思うので薄めてほしい。基本理念の「みんなで育てるみんなが育つ松戸の未来」の中の、結論としての「松戸の未来」は違うと思う。松戸の未来は、別の形でいろいろある。結果的に、松戸の未来がどうなるかは教育も絡むが、それ以外の要素も多分に絡む。教育を通じて松戸の未来をつくり出すのではなくて、松戸市民の幸せを追求していくのが松戸の教育である。子どもたちの可能性にチャレンジする、のところの柱の1つに、ぜひ入れていただきたいと思うのは、非常に増えている在留外国人の子どもたちに対する支援である。日本語教育を支援するなどを含めた1つの柱を、言葉で入れていただきたい。教育したいと思える環境を作りますというところの中に、教育をする指導者、先生たちへのケアを入れた方が良いのではないかな。例えば、学校の教師の働き方改革に真剣に取り組むなど。

全体スケジュール

令和7年10月15日
第2回総合教育会議

令和8年1～2月(予定)
第3回総合教育会議

令和8年4月

●基本理念の検討

●教育大綱素案
の検討

●新教育大綱
(R8～12)
スタート

松戸市教育大綱について

1 趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)第1条の3の規定に基づき、市長は、教育行政に関する「教育大綱」を策定することとされました。
松戸市教育大綱は、「総合教育会議」において、市長と教育委員会が協議・調整して策定しており、本市の教育、学術及び文化の振興に関する施策の根本的な方針を定めるものです。

2 策定及び改定概要

平成28年1月	松戸市教育大綱策定 【概要】 平成27年9月に設置された松戸市総合教育会議での計3回にわたる協議結果を踏まえ、「はじめに」・「大綱の背景と趣旨」・「教育大綱の位置づけ」・「対象期間」・「基本理念」・「基本理念を支える4つの柱」の6項目で構成する松戸市教育大綱を策定 【計画期間】 平成28年1月から平成32年度までのおおむね5年間
令和3年4月	松戸市教育大綱改定(現在の大綱) 【概要】 令和元年度～令和2年度における総合教育会議での計3回にわたる協議結果を踏まえ、平成28年に策定した大綱の方向性や基本的な構成は踏襲した上で、時代に即した内容に改定 【計画期間】 令和3年度から令和7年度までの5年間

3 大綱の位置づけ

松戸市教育大綱は、松戸市総合計画を上位計画とし、そのめざす将来像を実現するため、教育施策などを推進するための基本的な方向性を定めるものです。
策定にあたっては、教育基本法に基づく国の教育振興基本計画を参酌するとともに、関係する本市の他の行政分野の計画との整合性を図っています。

現・松戸市教育大綱(現・大綱)

基本理念

みんなで育てる みんなが育つ 松戸の未来

基本理念
を支える
4つの柱

松戸に育つ
子どもたちが
可能性に
チャレンジする
力を育みます
グローバル社会で
活躍できる人材の育成

松戸で子どもを
教育したいと
思える環境を
つくります

特色ある学校づくり

市民みんなが
いつまでも元気に
学び続け、
生きがいを
持ち続けられる
ようにします

地域で活躍する人材の育成

文化とスポーツで
松戸の魅力・価値
を高めます

松戸の地元愛の醸成

反映

新たに加える3つの視点

反映

1 福祉の視点

●こどもの未来を応援する「こどもまんなか社会」の実現を目指します。
⇒こどもの権利を保障しこどもを誰一人取り残さず、健やかな成長を社会全体で後押しする。
⇒置かれている環境等に関わらず、すべてのこどもたちが能力や個性を伸ばせる環境を整える。

2 教育環境の視点

●小中学校施設の老朽化対策及び学習環境の整備を進めます。
⇒子どもたちが快適な学習環境で、教育を受けられる環境を整える。

3 新しい文化・スポーツの視点

●文化芸術やスポーツの多様な価値を活かし、社会全体を豊かにします。
⇒従来の文化やスポーツのみならず、アーバンスポーツ等の若者文化の振興も図る。